

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭総合	2・3年福祉科	4単位	高等学校 新版 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	資料集 最新生活ハンドブック資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
------	---

評価の観点	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

学習の評価	<p>知識・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査 および 実習</li> </ul> <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査 および ワークシート、話し合い等での考察力、問題解決能力</li> </ul> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物と、その内容は充実度。</li> <li>・授業態度、実験・実習等に主体的・積極的に参加しているか。</li> <li>・ホームプロジェクトにおける達成度。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。</p>
-------	---

単元	学習内容	到達目標
家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブ活動とは  1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計 第2節 家族・家庭と社会  2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達  第2節 子どもの生活 体験 子どもとのかかわり方を学ぶ  第3節 子育て支援と福祉  3章 充実した生涯へ  4章 ともに生きる  5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事 第2節 栄養と食品	1. 生涯発達する自分 2. 青年期を生きる  1. 家族・家庭・世帯 2. 家族・家庭の働き 3. パートナーと出会う 4. 結婚と変化する家族 5. 家族に関する法律  1. 次世代をはぐくむ 2. 乳幼児の心と体の発達 3. 乳幼児の心の発達  1. 乳幼児の生活と安全 3. 子どもの成長と遊び 体験 子どもとのかかわり方を学ぶ  1. 地域社会と子育て支援  1. 超高齢社会を生きる 2. 人生のなかで高齢期をとらえる 3. 高齢期の生活  1. 社会保障制度と社会的連帯 2. 人の多様性と社会参加  1. 私たちと食事 2. 健康に配慮した食生活 1. 人体と栄養 2. 各種栄養素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。</li> <li>・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解する。</li> <li>・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。</li> <li>・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。また、現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。</li> <li>・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。</li> <li>・子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生み育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考えることができる。</li> <li>・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学ぶ。さらに、母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。</li> <li>・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。</li> <li>・乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には個人差はあるが、一定の方向性や順序性があること、言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることや、乳児期の親との関わりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解できるようにする。</li> <li>・生涯を見通して高齢期を捉えることができるようになる。</li> <li>・長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。</li> <li>・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。</li> <li>・加齢こともなまってすべての機能が衰えるわけではなく、成熟期として捉えられる面もあることや、個人差が大きいことを理解する。</li> <li>・ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。</li> <li>・生涯を通して誰もが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会の構築のために、協力・協働の視点からどのような理念や社会的支援およびシステムが必要かなどについて考え、工夫する。</li> <li>・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高めるとともに、食事の役割を認識し、食が心身を育むうえで大切なものであることを理解するとともに、人間の体の生理的周期を知り、なぜ朝食をきちんと取る必要があるかを考える。</li> </ul>

<p>第3節 食生活の安全のために</p> <p>第4節 食生活をデザインする</p> <p>調理実習</p> <p>6章 衣生活をつくる</p> <p>第1節 人の一生と被服</p> <p>第2節 被服材料と管理</p> <p>第3節 これからの衣生活</p> <p>第4節 被服の製作 被服製作実習</p> <p>7章 住生活をつくる</p> <p>第1節 人の一生と住まい</p> <p>第2節 住生活の計画と選択</p> <p>8章 経済生活をつくる</p> <p>第1節 私たちの暮らしと経済</p> <p>第2節 消費者問題を考える</p> <p>第3節 持続可能な社会</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品の選択と保存</li> <li>2. 食品の安全と衛生</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養バランスのよい食事</li> <li>2. 食品群と摂取量のめやす</li> <li>3. ライフステージと食事</li> <li>4. 献立作成の手順</li> <li>5. 調理の基本</li> </ol> <p>調理実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちと衣生活</li> <li>2. 被服の機能</li> <li>3. 被服の選び方</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被服の素材</li> <li>2. 洗濯方法と表示</li> <li>3. 被服の手入れと保管</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衣文化の継承と創造</li> <li>2. 持続可能な衣生活 被服製作実習</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちと住まい</li> <li>2. 平面図の活用</li> <li>3. 住まいのインテリア</li> <li>4. 生涯を見通した住まいの工夫</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 快適で健康な住まい</li> <li>2. 安全で安心な住まい</li> <li>3. 持続可能な住まい</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生とお金</li> <li>2. 収入と支出のバランス</li> <li>3. 将来の経済生活を考える</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約とは</li> <li>2. 消費者問題はなぜ起こるのか</li> <li>3. 多様化する支払い方法とリスク</li> <li>4. 消費者の自立と行政の支援</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費生活と持続可能な社会</li> <li>2. 消費者市民社会をめざして</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって、生活習慣病や心身の不調がもたらされることを知り、食生活にかかわる情報を適切に判断することができる。</li> <li>・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。</li> <li>・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。</li> <li>・身体活動レベルについて理解し、そのときの自分がどの身体活動レベルにあたるかを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸でみると、ライフステージによっても違ってくことを理解する。</li> <li>・乳幼児期、児童期・青年期、壮年期、高齢期ごとに、衣生活の留意点を学ぶ。</li> <li>・被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。</li> <li>・人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。</li> <li>・代表的な布として、織物と編物の違いを知る。織物については、三原組織の交錯の仕方、編物では、メリヤス組織について理解し、それぞれ身近な事例を取り上げて確認する。</li> <li>・さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知る。</li> <li>・洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。</li> <li>・家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考えとともに、中古衣料のリユースやリフォームの工夫や、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生にさかのぼって考える。</li> <li>・昔の住宅から現代の住宅までの日本における住まいの変化を理解し、それぞれの時代の家族のあり方や住まい方を考える。</li> <li>・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解するとともに、生活行為と住空間とのかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。</li> <li>・地震などの自然災害や、火災などの人的災害への対策について考える。</li> <li>・家庭内事故の原因について知り、乳幼児や高齢者、障害者などの家庭内事故を防止するためにはどのような安全対策が必要か考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることや、家族のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面からの経済計画が必要であることを理解する。</li> <li>・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。</li> <li>・家庭経済と国民経済とのかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。</li> <li>・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。</li> <li>・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。</li> <li>・次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。</li> <li>・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。</li> <li>・環境にやさしい消費行動を具体的な項目で示し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。</li> <li>・消費行動を通して社会に参画することができる。</li> </ul>
---	---	---